

たるみ調整自動化

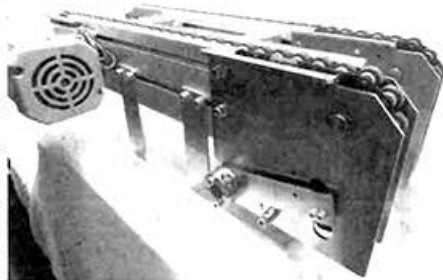
倍速チェーン
コンベア向け

NKEが機構部品

【京都】NKE（京都市伏見区、中村道一社長）は、主力のコンベヤー製品「倍速チェーンコンベア」用の機構部品（写真）を開発した。チェーンの張り具合を常に適正状態で維持し、人手による月1回程度のたるみ調整作業を不要にできる。

同コンベヤーのオペシヨンの「オートテンション仕様」と名付けた新機構の提案を6月に始め、顧客の人手不足解消を支援する。

新設の同コンベヤーへの組み込みのほか、既存設備への後付けにも対応する。オペシヨンの格は新設向けや後付け、スプロケット間の長さなどで異なり、4万6000円（消費税抜き）から、年間180台の販売を目指す。同コンベヤーは駆動



ブリー（滑車）と尾部のテールブリー、同ブリー真下に配置してチェーンの張力を保つテンションブリー

仕組み。バネ式の自動調整よりも張りが安定し、エア式と比べてシンプルな機構で事故を防げる。

1などで構成する。

新機構はチェーンの伸びに合わせてテンションブリーが自重で下がると、下がった位置で都度、ワンウェイクラッチで自動固定して適正な張りを保ち、故障や動作停止を防ぐ